

教員のための博物館の日 in 大阪歴史博物館

－ 博学連携をすすめるために －

釋 知恵子

1. はじめに

教員のための博物館の日は、平成20年に国立科学博物館がスタートした事業である。児童・生徒の豊かな学習のために、まずは教員自らが博物館に親しみを持ち、博物館が持つ学習資源を知り、授業等で博物館を活用してもらうことを狙いとしている¹。平成27年度は、全国20カ所に広がり、大阪では、平成24～27年夏に大阪市立自然史博物館で、平成26・27年夏に大阪歴史博物館で開催された。教員のための博物館の日は、地域や開催館それぞれの課題や実情に合わせて内容や運営方法が決められるため、そのプログラムは開催館によって違いがある。

本稿では、大阪歴史博物館では、どのような課題解決のために、教員のための博物館の日を開催したのか、また開催内容とその成果について、企画、運営方法、当日のプログラム、参加者の様子、事後のアンケートなどを通して、報告する。

2. 「教員のための博物館の日 in 大阪歴史博物館」の企画・運営の特徴

大阪市内には、美術館・博物館・科学館・動物園などさまざまな種類の博物館がある。大阪歴史博物館を運営する公益財団法人大阪市博物館協会は、大阪歴史博物館のほか、大阪市立美術館、大阪市立東洋陶磁美術館、大阪市立自然史博物館、大阪文化財研究所という5つの館所を運営している。また、これまで大阪城天守閣、大阪市立科学館、大阪新美術館建設準備室、天王寺動物園、大阪くらしの今昔館という大阪市内の博物館と連携し、共同事業や共同広報を行ってきた。それぞれの博物館では、独自にさまざまな学校向け事業を進めているが、博物館が行っている事業について、まだまだ教員に知られていないという共通の課題があった。博物館での時間を有意義に過ごしてもらい、学校での学習にもっと博物館を活かしてもらうためには、博物館のことを教員に知ってもらう必要がある。その機会として、大阪歴史博物館において「教員のための博物館の日」を実施することにした。大阪市の博物館の総合力を発揮し、多様な興味関心を持つ教員に、さまざまな種類の博物館がこれまで行ってきた学校との連携事例を伝え、教員に具体的な博物館利用のイメージを持ってもらうことを狙いとしたのが、教員のための博物館の日である。

企画は、大阪市博物館協会の事業企画課が中心になり、大阪市博物館協会所属館所と上記の連携館によって行われた。まずは、それぞれが当日提供できる内容を検討した結果、学校と博物館の連携事例を紹介する講演会を中心に、各館の学校向け事業紹介ブースを設けることに決まった。このほか、平成26年度は、開催館である大阪歴史博物館の展示解説ツアー、平成27年度は、昔の瓦の拓本作りや

博物館と隣接する難波宮解説ツアーなど、教員の知識や経験が広がり、教員自身が楽しめる内容も入れることにした。

開催日は、現場の教員の意見を参考に、夏休み期間中、教員が参加しやすい8月上旬を選び、平成26年は8月7日、平成27年は8月5日に開催した。また、教員のための博物館の日は、大阪市教育センターと連携して実施し、夏の研修の一つとして大阪市教育センターで参加者の募集・受付を行った。研修での参加者募集のほか、一般募集も行ったが、一般参加者も業務として参加しやすくなるよう、大阪市教育委員会、大阪府教育委員会、堺市教育委員会の後援を受けた。当日の運営は、大阪市教育センタースタッフにも協力いただいた。

3. 当日のプログラムと参加者について

平成27年度の当日のプログラムは、表1の通りである。平成26年度は、午前11時から各館の学校向け事業紹介ブースをスタートさせ、午後1時から講演会を実施したが、午後から参加する人が多く、結果、自由見学の時間があまりなかったという意見があった。この反省から、平成27年度は、午前10時に開会し、午前中に講演会などを行い(図1)、午後は体験プログラム(図2)と各館ブース(図3)や展示などの自由見学として、終日開催した。各館ブースでは、学校向け事業をまとめたB1サイズのポスターを各1枚掲示するほか、各館が教員に向けて紹介したい学校向け事業の資料(貸出資料や書籍、これまでの学校との連携を紹介する資料など)を持参し展示した。平成27年度には、教員に紹介するだけでなく、大阪文化財研究所による発掘さ



図1 博物館の学校向け事業紹介



図2 むかしの瓦の拓本作り



図3 各博物館施設のブース展示

表1 教員のための博物館の日2015 in 大阪歴史博物館 スケジュール

時間	場所	実施内容	内容詳細
9:30~	4階 講堂前	受付	
10:00~10:10	4階 講堂	開会式・教員のための博物館の日ガイダンス	
10:10~10:40		講演会「市立美術館の鑑賞学習 ～美術を楽しむはじめの一步」 大阪市博物館協会 元学校連携担当課長 宮前一郎 大阪市立美術館 学芸員 弓野隆之	大阪市立美術館では、学校からのリクエストに応え、鑑賞学習を実施しています。まずはお気に入りの1枚を見つけることからスタートする市立美術館の鑑賞学習の事例を、学校と美術館の鑑賞学習をコーディネートした元教員と美術館の学芸員の立場からお話しします。
10:40~11:05		大阪市立自然史博物館の事例紹介 「学校教員と一緒に考えて作った貸出キット」 大阪市立自然史博物館 学校連携担当 釋 知恵子	大阪市立自然史博物館では、学校向けにさまざまな事業を展開しており、学校で利用できる貸出キットもその一つです。教員の意見を反映し作成したキット「大阪の地下の地層を調べるのに役立つボーリングコア」・「国語で使えるタンポポ・虫の体」と、キットを利用した授業例を紹介しします。
11:05~11:30		大阪歴史博物館の事例紹介 「大阪歴史博物館の考古学体験事業」 大阪歴史博物館 学芸員 村元健一	大阪歴史博物館では考古学に関わる様々な普及活動を行っています。平成26年度から開始した「考古学体験教室」もその一つで、発掘で見つかった本物の資料を使い、拓本や土器の接合などを行いました。今回は、この事業の内容と今後の課題を報告します。
11:30~11:50		大阪歴史博物館の概要説明 事業企画課 学芸員 澤井浩一	大阪歴史博物館の見どころと学校向け事業について
11:50~12:00		以降のスケジュール・集合場所等の説明	
12:00~16:30	<大阪市研修プログラム1> 13:30~14:50 ※集合は、博物館1階です	大阪文化財研究所の学芸員による 難波宮ツアー (50名)	大阪市教育センター研修でご参加いただく方対象のプログラムです。史跡難波宮、大阪文化財研究所難波宮調査事務所などを見学します。
	<大阪市研修プログラム2> 13:40~14:55 第2研修室	13:40~14:10 むかしの瓦の拓本作り 1回目 (15名) 14:25~14:55 むかしの瓦の拓本作り 2回目 (15名) 大阪歴史博物館 学芸員 松本百合子	大阪市教育センター研修でご参加いただく方対象のプログラムです。むかしの瓦の拓本作りの体験講座です。
昼食休憩 大阪市研修プログラム参加・自由見学	自由見学	<p>研修プログラムに参加されない方および、研修プログラム以外の時間は、自由に館内見学と各博物館施設のブース見学をしていただけます。</p> <p>・12:30~13:00 屋外の復元倉庫の公開 (わが国の5世紀倉庫群としては最大規模の法円坂倉庫群。そのうちの1棟を復元しています。)</p> <p>・一般来館者向け行事 13:00/14:00/15:00*/16:00 難波宮遺跡探訪 (所要約20分または*40分。博物館周辺にある遺跡を案内します。)</p> <p>受付: 1階/各回出発の30分前から 定員: 各回先着40名</p> <p>・常設展では体験コーナー (8階「なにわ考古研究所」や7階「大阪名所双六」、特別企画展「初世中村鷹治郎-上方歌舞伎の巨星-」もお楽しみいただけます。</p>	
	ブース展示 12:30~16:30 第1研修室	各博物館施設ブース	

れた陶磁器の接合体験、大阪くらしの今昔館によるミニすだれ作り・はたき作り、大阪市立自然史博物館の断層・液状化実験、大阪市立科学館の科学実験など、教員が体験できる内容が各館のブースでも展開された。

当日の参加者は、平成26年度は104名、平成27年度は88名だった。平成27年度の参加人数の減少は、当日の運営面の変更により、募集人数を減らしたことによる。

4. 参加者のアンケート結果

当日参加した教員にアンケートを実施し、参加者の傾向・事後の感想などを集めた。平成27年度の結果について報告する。参加者88名のうち、82名から回答が得られた。当日の参加者については、小学校の教員が一番多く（図4）、20年以上という経験年数が長い教員の参加者が多かった（図5）。担当教科は、大阪歴史博物館での開催であったが、社会だけでなく、さまざまな教科を専門とする教員が参加した（図6）。さまざまな館種の事例紹介という内容が幅広い層の教員の興味を引いたのではないかと考えられる。また、担当する学年や教科の学習で、博物館をどのくらい利用するのかという質問に対して、年1回以下である教員が約8割を占め（図7）、その利用方法は、遠足・校外学習による博物館来館と、調べ学習でのホームページの利用が多く（図8）、学校で博物館をあまり利用していない教員の参加が多いことが分かった。

参加者の感想は、とてもよかった（73%）、まあまあよかった（26%）、ふつう（1%）で、よくなかったという回答はなく、満足できる1日だったと言えるだろう。個別の意見では、「博物館を有効に活用できるツールがたくさんあることを知れてよかった」「学習に使える教材などを貸していただけたり、博物館と連携して授業の組み立てを考えることができたりするを知れた」「（博物館が）子どもと遠く離れたものではなく身近なものだったのだなあと思いました。知らなかったこともたくさん知れて興味がわきました。学芸員さんのお話しもわかりやすくとても良かったです」「博物館に親しみを感じた。活用していけたらと思います」等の意見が聞かれた。博物館の利用方法が教員に伝わり、博物館を利用する意欲を引き出したことが感じられる。

平成27年度は、企画・運営側であった各館担当者に実施後アンケートを行い、5施設6名から回答が得られた。「参加してよかった」と答えたのは全員で、「貸出キットなど利用法を知らない先生にアピールできて、直接話ができてよかった」「終了後に参加者から数件の問い合わせがあった」「じっくり話のできたので、博物館に求められていることがわかった」など、直接教員に話して伝えることの良さや手応えを感じたことが分かった。また、「他館の取り組みについて知ることができた」と、さまざまな館が一緒になって実施することで、博物館同士の情報交換に役立ったこともうかがえた。

5. 今後に向けて

平成26年の大阪市内小中学校教員の人数は約13,000人であった²。教員の日の参加者は、平成26・27年度を合わせて192人、平成26年全教員の約1.5%であり、わずかな数の先生にしか参加いただけない。より多くの教員に博物館のことを知ってもらうためには、博物館から学校に向けての継続的

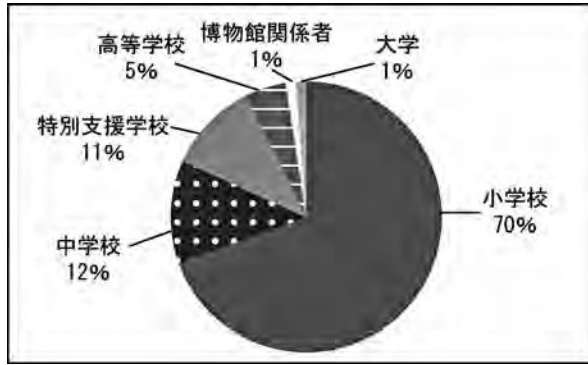


図4 アンケート結果（参加者の校種）

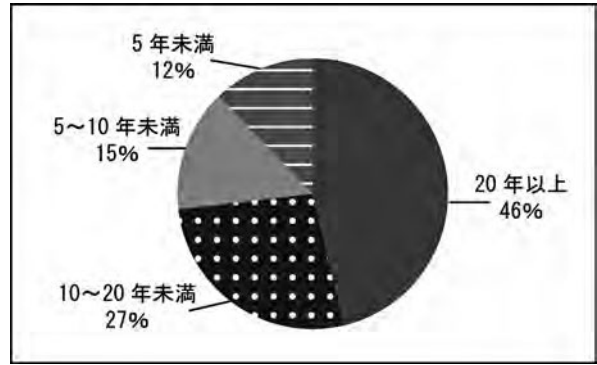


図5 アンケート結果（参加者の教員経験年数）

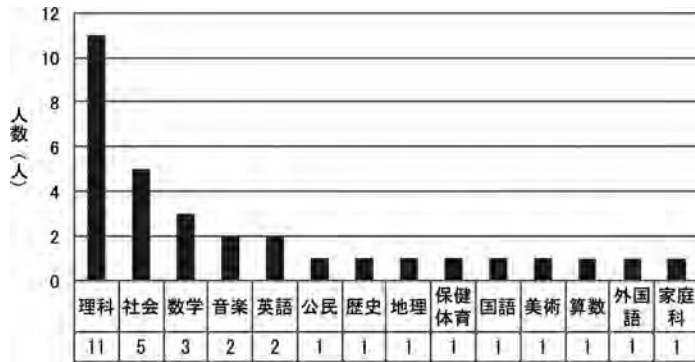


図6 アンケート結果（参加者の担当教科※複数回答あり）

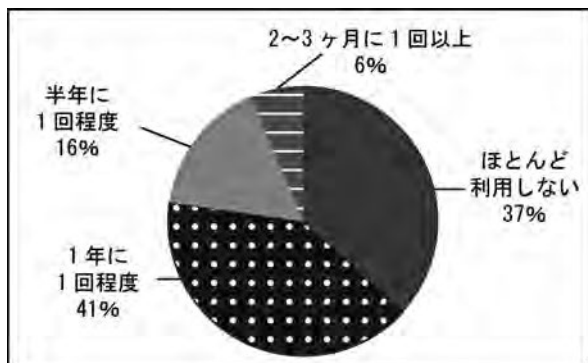


図7 アンケート結果（担当の学年や教科での博物館利用の頻度）

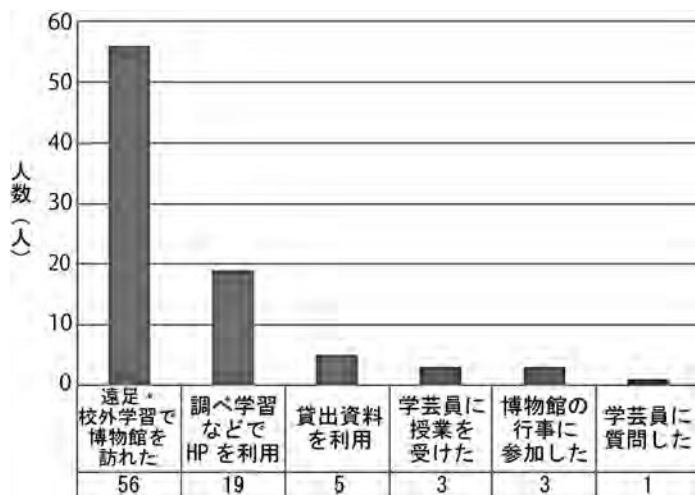


図8 アンケート結果（担当の学年や教科での博物館利用の方法※複数回答あり）

なアプローチは必要であり、そういう点では、教員のための博物館の日は、一度にたくさんの教員を集められる広報効果の高い機会ではないだろうか。

小学校・中学校の現行の学習指導要領では、さまざまな教科で、博物館等施設の活用と連携することが述べられている。どのように活用・連携したらいいのか方法が分からないという教員に対しても、教員のための博物館の日のような事業で、博物館からのメッセージを送り続けることも大切である。しかし、博物館からの一方的なアプローチには限界があり、より多くの教員に理解してもらうためには、やはり学校側からの博物館へのアプローチにも期待したい。参加者のアンケートから、大阪歴史博物館での開催に平成26年・27年と2年続けて参加した教員が13名おり、大阪市立自然史博物館での教員のための博物館の日に参加したことがある教員が8名いたことが分かった。博物館に興味を持ち、博物館のことを知りたい・利用したいと思う教員が、教員のための博物館の日のリピーターとなっている。こういった教員たちが学校側の核となり、博物館を利用し、博学連携による児童・生徒の学習効果をはかり、その効果について他の教員に伝えていくことも大切なことであろう。その実現のためにも、さまざまな種類の博物館がある大阪市ならではの方法で、博物館同士が連携し、教員と協力しながら、よりよい博学連携を伝え、考えていく場が今後も必要である。

(公益財団法人 大阪市博物館協会 事業企画課)

註

- 1 小川義和 (2010)「教員のための博物館の日」の取り組み. 博物館研究45 (11): 6-7.
- 2 大阪市における学校の概況 (平成26年度学校基本調査) より。大阪市ホームページ <http://www.city.osaka.lg.jp/toshikeikaku/page/0000299248.html> 2015. 10. 28閲覧